

市議会3月定例会行政報告

バイパスの早期供用開始に努力

市議会三月定例会が招集された三月三日、小畑市長が行政報告をしました。その中から主なものの要旨をお伝えします。

なお、今定例会で審議された案件等については、四月一日号でお知らせします。

大館能代空港について

大館能代空港は、昨年八月二十四日の運輸省空港整備計画検討委員会において、予定事業か

ら新規事業へ格上げされました。政府予算案には滑走路の実施設計調査費五千万円が計上され、県北地域住民の悲願である空港建設に向けてゴーサインが出されたものと受け止めています。

今後は県が建設作業を進めていくわけですが、五年度は用地測量、用地交渉を行い、九月ごろまでに地権者の同意書を添付のうえ、運輸大臣へ飛行場設置許可申請をする予定とのことです。また、六年度は用地買収と一부분体工事着手、七年度から本工事と、平成十年開港に向けた建設スケジュールが組まれています。かなりハードなスケジュールですから、同盟会会長を務める本市として

も関係市町村等と連携を密にし、県をバックアップしながら、一日も早い開港を目指して全力で取り組んでいくつもりです。今後ご理解とご協力をお願いします。

仮称・大館短期大学について

短期大学誘致については、昨年十二月、仮称・大館短期大学を設置することが学校法人秋田経済法科大学から発表されました。その後経法大では、大館短大の基本構想を策定するため、学校法人、秋田県、大館市、学識経験者の四者による大館短期大学設置委員会を設け、第一回会合が平成五年二月十六日に開催されました。本市からは助役と総務部長の二人が委員を委嘱されています。

短期大学が完成して約五百人の学生が大館で勉学することは、地域経済等に大きな効果をもたらすものと期待しています。市民に愛される「地元」の大学とし

て開学できますよう、一層のご支援をお願いします。

屋根付多目的グラウンドについて

グラウンドについて

県では、五年度当初予算に屋根付多目的グラウンド建設関連予算として調査費を計上し、建設



県へ出雲ドームと同程度の規模を要望

地は大館市にしたいと、概要を二月十八日に発表しました。

本市では、県が三年に発表した新総合発展計画を念頭におきながら、比内町、田代町を含む

市長リポート



No.40

交通混雑解消に向けて

アメッコ市を終えてみてつくづく感じたのは、すさまじく渋滞が多いということでした。ほとんど街がまひ状態になってしまいました。都市基盤整備の遅れが端無くも露見したわけですが、特にバイパスが全然整備されてなかったことが一番の原因だと思っています。何としても早期に解決を図らなければならない問題です。

現在、六年度の部分供用開始を目指して、大館西道路の側道と市道御成町・沼館線の工事が進められています。これによって片山の国道7号と樹海ラインが結ばれると、大館初のバイパスとして、部分的とはいえ使えるようになります。また、南バイパスの早期供用開始や東バイパスの樹海ラインまでの延長も考えていかなければなりません。これらバイパスがない限り、大館の交通混雑は永遠に解消できないと思います。部分供用を含め、一日も早い開通に向けてがんばっていきます。

小畑 元

